

Feedback

社員のWell-beingを柱とした 人的資本経営のさらなる進化を期待

“Well-being”を重視した 「人が資産」の人的資本経営

今回、第三者の立場でNECソリューションイノベータの経営陣、また人事部門と議論を行う中で、NECソリューションイノベータの人的資本経営の特徴は「社員のWell-being」を人的資本経営の柱に持ってきていることだと考えています。特に、「健康・成長・働きがい」の中でも社員の「健康」が最初に出てくるのが会社としての姿勢を示しており、この順番にこそ意味があると感じています。

人的資本経営というと、社員の能力アップやリスクリングといったテーマに着目する企業が多く、この点もちろん重要です。しかしそこからさらに一歩進み、「人は会社の大切な資産である」という考えのもと、健康かつ心豊かに働き続けてもらうことで一人ひとりの人生の充実感を実現していきたい、という考え方については持続可能性があり、評価しています。「人が資産」だと考える会社の姿勢を体現しているものだととらえています。

「社員のWell-being」から 「お客様のWell-being」へとつなげる進化を期待

一方、本レポートに書かれている現時点での各施策内容を見ると、「社員のWell-being」「健康・成長・働きがい」という考え方に對して、まだ追いついていない部分も見受けられます。今後目指す姿の実現に向けて、考え方と各施策のつながりの部分を充実させ、具体的な施策、実行へと落とし込んでいくことが課題となります。

そのためには、人的資本経営で何を実現させるのか、「社員のWell-being」を内輪の活動で終わらせず「お客様のWell-being」にどうつなげていくのか、について整理をする必要があります。

「社員のWell-being」と「お客様のWell-being」で相乗効果を生み出すことに真摯に取り組み、「社員のWell-being」を起点にした、良い循環を生み出すような人的資本経営を、今後期待しています。

東京大学大学院
経済学研究科・経済学部 教授

柳川 範之

